



2015年12月発行

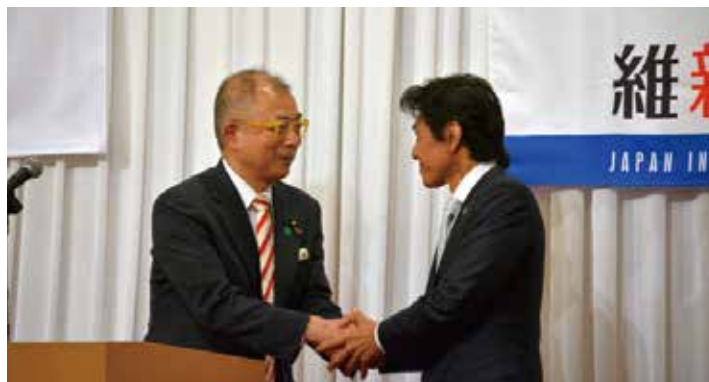


衆議院議員 柿沢未途

維新の党代表選が行なわれ、党員投票の結果、松野頼久代表が再選されました。惜敗された小野次郎参院議員も全国各地で開催された党員集会を回り、今後の幅広い結集に向けた具体的な進め方や堅持すべき理念と政策について活発な討論を交わしました。

12月6日の臨時党大会で松野頼久代表が当選者として選出され、代表選の選挙戦はノーサイドとなりました。新執行部では政調会長に小野さんが起用され、全党的布陣で今後の再編に臨んでいく事となりました。

バラバラでは国民の期待の受け皿にはなり得ません。だからこそ安保法制の強行採決以来、いったんは下がった安倍政権の支持率が揺り戻しのな上昇を示しているのです。経済政策においても、一部の大企業や富裕層に恩恵が集中するアベノミクスが続けられ、国民・庶民は世帯年収の低下で冷え冷えとした景気実感であるにもかかわらず、政府からは「景気は回復している」



松野代表が再選



と自画自賛の声ばかりです。こんな状況が続くのも、対抗すべき政治勢力のふがいなさが理由です。

小異を捨てて大同に就く、〈平成の大同団結運動〉の精神で、大企業や富裕層の側ではなく、国民・庶民の側に立つ、新たな政治勢力を作りたいと思います。既成の野党に国民の期待はありません。過去の失敗や度重なる離合集散で、国民

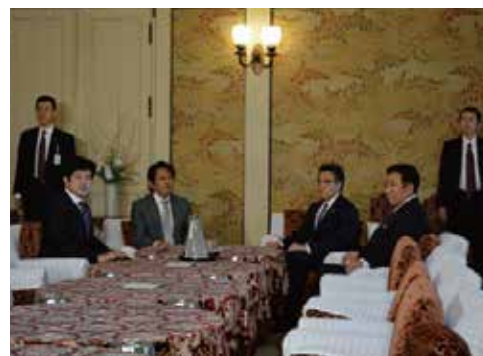
の信頼を取り戻すのは容易ではありません。かといって、今、国民が求めているのは、政権にすり寄る大政翼賛の政治勢力ではないのも事実です。

今ある政党の枠にこだわる事なく、国民・庶民が何を求めているか、その声に耳をすませて、進路を切りひらいていきたいと思います。西郷隆盛が薩摩藩主・島津久光の怒りにふれ、南の果ての沖永良部島に流罪となったのは文久2年(1862年)、そこで1年半の牢獄生活を過ごしました。しかしこの絶望的な遠島から帰還わずか3年余で、西郷さんは倒幕の壮挙を成しとげるのです。「敬天愛人」の言葉を得た沖永良部島での西郷さんの苦難の時代に思いを馳せています。

衆院 100人規模の結集へ、 統一会派結成

党代表に再選された松野頼久代表は、さっそく12月7日、民主党の岡田克也代表との党首会談を行ない、年明けの通常国会に向けて、衆院で100人に近い規模の野党第一会派として結集する事に合意しました。参院でも60人を上回る野党第一会派となります。これに続く野党第二会派は衆院では20人規模、参院でも10人規模ですから、他とは比較にならないほどの突出した数となり、これにより与野党の国会論戦を主導するとともに、抜きん出た存在感を示せるようになります。

野党は国会論戦が勝負です。ここで



国民を振り向かせるような論戦を展開できるかどうかで、来年7月の参院選の勝敗が決まると言っても過言ではありません。衆参ダブル選挙の可能性も取りざたされており、自らの存亡をかけた勝負になるのはなおさらです。ここまでバラバラで国民の失望をかけてきたのですから、乾坤一擲、起死回生の機会ととらえるべきだと思っています。

国会論戦の主要な舞台となる予算委員会をはじめ、私自身も、積極的に役割を担っていくつもりです。上の方ばかり良くなるアベノミクスに代わる国民・庶民のためのボトムアップの経済政策、まやかしの現金3万円バラマキと消費税の複数税率化、3年間手付かずの国会議員の定数削減、地方創生にも資する「自然エネルギー立国」への道筋、取り上げたいテーマは山ほどあります。新年早々の1月4日には召集されるという通常国会に向けて、年末年始にかけて国民・庶民の声に耳を傾けて、来たるべき論戦の準備を進めていきたいと思えます。



衆議院議員 柿沢未途